

消防団、区長さん、地区のみなさんと一緒にコミュニティセンターまでの避難訓練！
～地域と共にある学校づくりを目指して～

熊本県立天草支援学校

天草と地震

平成28年4月、熊本地方を震源とする「熊本地震」が発生しました。しかし、本校のある天草地方は地震による被害はほとんどなく、学校も1日のみ休校としたただけでした。しかし、古い文献には天草地方にも津波が押し寄せ、本校まであと約1kmというところまで津波が押し寄せたという記録が残っています。地震と無縁の地ではありません。

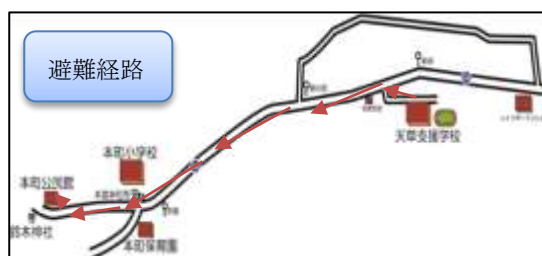
地震避難訓練の必要性と地域との連携

熊本地震をきっかけとし、本校でも防災について見直すこととしました。地震で津波が発生し押し寄せたらどうなるのか？学校が孤立した場合に児童生徒の安全管理をどうするのか？保護者引き渡しをどのように行うのか？など、多くの課題がみえてきました。

そこで、地震避難訓練の方法を見直すことにしました。地区の避難場所として指定されている本町コミュニティセンターまでの避難、コミュニティセンターでの活動、保護者への引き渡し等、地震が発生した場合に想定される一連の内容を避難訓練のなかで実施しました。地域にも協力を依頼し、4団体から多くの方々に協力していただくことができました。今回は、その様子を紹介します。

コミュニティセンターまでの避難の様子

本校からコミュニティセンターまでは約1.4kmあります。その途中には坂道や車椅子の前輪がはまってしまいそうな側溝があり、避難する際に気を付けなければならないような箇所が多々あります。また、今年度は、各家庭に呼びかけ防災リュックを準備していただきました（必要最低限の食料や飲み物、着替え、避難場所で過ごすために必要な物、トランプやメモ帳等を入れている。重さは約2kg）。その防災リュックを持つての避難でした。児童生徒の避難時の支援、防災リュックを持ってない児童生徒への対応など、どうしても職員数が足りないという課題もありましたが、地域の消防団や区長会等のみなさんに協力していただくことにしました。消防団のみなさんには、リュックをリヤカーに積んで運び、児童生徒の安全を確保しながら一緒に避難していただきました。区長会のみなさんには、道路を横断する際の誘導などで協力していただきました。



消防団、区長会のみなさんも一緒に避難していただきました。



安全に誘導していただきました。

コミュニティセンターでの活動の様子

コミュニティセンターに着くと、各学部、クラスごとに分かれて休憩と昼食をすませました。地域のみなさんには、その様子を観察していただき、気付きなどを講評のなかで話していただきました。消防署の方からは、想定外のことが起こってしまったときにどのように対応するのか考える必要があるということを東日本大震災の体験から話していただき、防災の大切さを全員で考えることができました。また、コミュニティセンターの施設の方からは、「困ったことがあったらどんなことでも言ってください。一緒に防災について考えていきましょう。」という言葉をいただき、子ども達の安全のために地域と一緒に考えていくことの大切さを感じました。



講評の様子



全員が参加した防災教育

保護者引き渡しの様子

下校時には、コミュニティセンターに協力をいただき、保護者引き渡し訓練を行いました。保護者から事前に提出していただいた引き渡しカードにある情報を確認しながら、引き渡しを行いました。確実な引き渡しを行ったことで、トラブルもなく全員無事に引き渡しことができました。児童生徒は、いつ自分を迎えに来てくれるのだろうと、ドキドキしながら迎えを待っているようでした。しかし、友達とトランプなどをして待ち時間を過ごし、落ち着いてコミュニティセンターで過ごすことができました。



施設での児童生徒の様子



保護者確認カード記入の様子

地震避難訓練後の感想から

子ども達の感想

消防団のみなさんが荷物を持って、一緒に避難してくれたことがとってもかっこ良かったです。ぼくも消防団に入りたいです。

保護者のみなさんの感想

消防団のみなさんや地域の皆さんに協力していただき、本当にありがたかった。今回の地震避難訓練に参加できて本当に良かった。

地域のみなさんの感想

天草支援学校の地震避難訓練に参加できて本当に良かった。真剣な様子が伝わってきた。これからも、地域と共に行う避難訓練を継続して実施されることを望みます。

地震避難訓練を通して

地域と共に行う避難訓練は、今回が初めての取組でした。この避難訓練をとおして、地域との繋がり的重要性を一層感じるようになりました。避難訓練の意義も高まりました。避難の際は、支援学校の児童生徒の安全確保のためには地域の協力がなくてはなりません。今後も地域と共に防災について考え実践し、地域のみなさんと共に子ども達を育てていきたいと思えます。